

①糖尿病・肝硬変・肺炎

症例: ウェスティ 11歳 ♂

診断: 糖尿病、肺炎、肝硬変

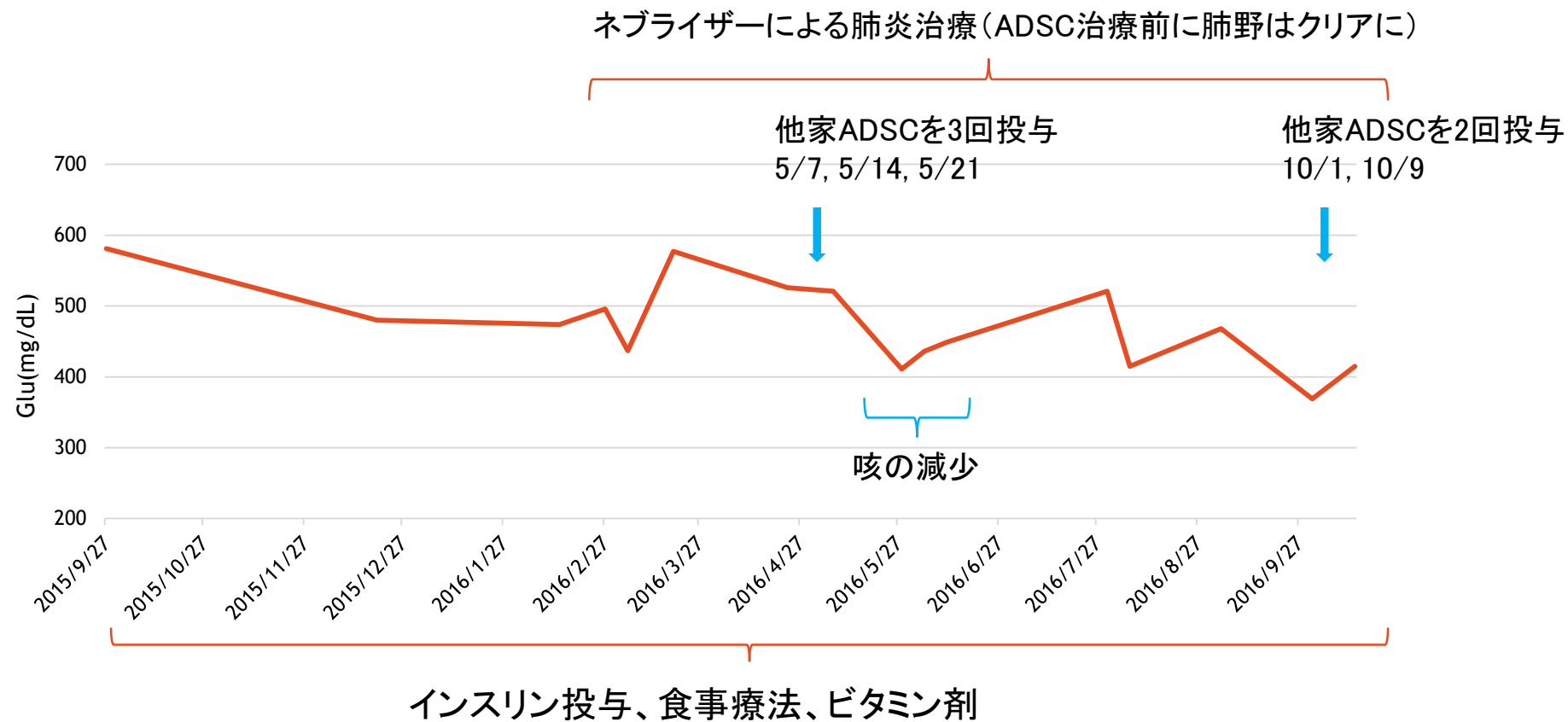
症状: 多飲多尿、咳、肺炎像

治療: ネブライザー、インスリン、ウルソ、食事療法(+サプリメント)、ビタミン薬等

ADSC療法目的: インスリン依存性糖尿病の血糖値安定、肺炎の軽減、肝硬変の軽減

ADSC療法: 他家ADSC(1.0×10^6 個/kg)を1クール目 3回 IV, 2クール目 2回IV

①糖尿病・肝硬変・肺炎



ADSC治療前後での肝酵素値の変化

	2016/5/7	2016/5/28	2016/6/4
GPT(AST) (U/L)	105	86	108
GOT(ALT) (U/L)	74	71	90
ALP(IU/L)	2051	2107	1944

①糖尿病・肝硬変・肺炎

獣医師コメント

- ・インスリンには反応するものの血糖値を十分にコントロールすることができない状況が続きADSC療法を追加にて提案。1クール時のADSC療法後に一時的に血糖値が減少したものの安定化したとは言い切れなかった。
- ・1クールADSC終了後に飼い主より「以前より元気が出た」との報告があり、QOLも一時的に上昇した可能性がある。
- ・ADSC治療後1か月は、咳が減少したとの飼い主稟告があった。
- ・ADSC治療前後にて肝酵素値に変化はなかった。

健康関連のQOL-15(CHQLS-15)

ADSC治療前	ADSC3回目投与後
41	46

②肝硬変・甲状腺機能低下症

症例:M・ダックスフント 13歳 ♀避妊

診断:肝硬変・甲状腺機能低下症

症状:皮膚症状(脱毛および痒み)

既往歴:皮膚炎(脂漏症)、マラセチア(+)

治療:Levothyroxine製剤、ウルソ・ネオファーゲン(2016年2月21日より)。自家ADSCを3回(1.0×10^6 個/kg)IV投与

ADSC治療目的:既存療法では改善されなかった甲状腺機能低下による症状の緩和

2011年8月より、皮膚炎治療

2015/3/6 健診にて、ALT:159、AST:30、ALP:1090、TG:294

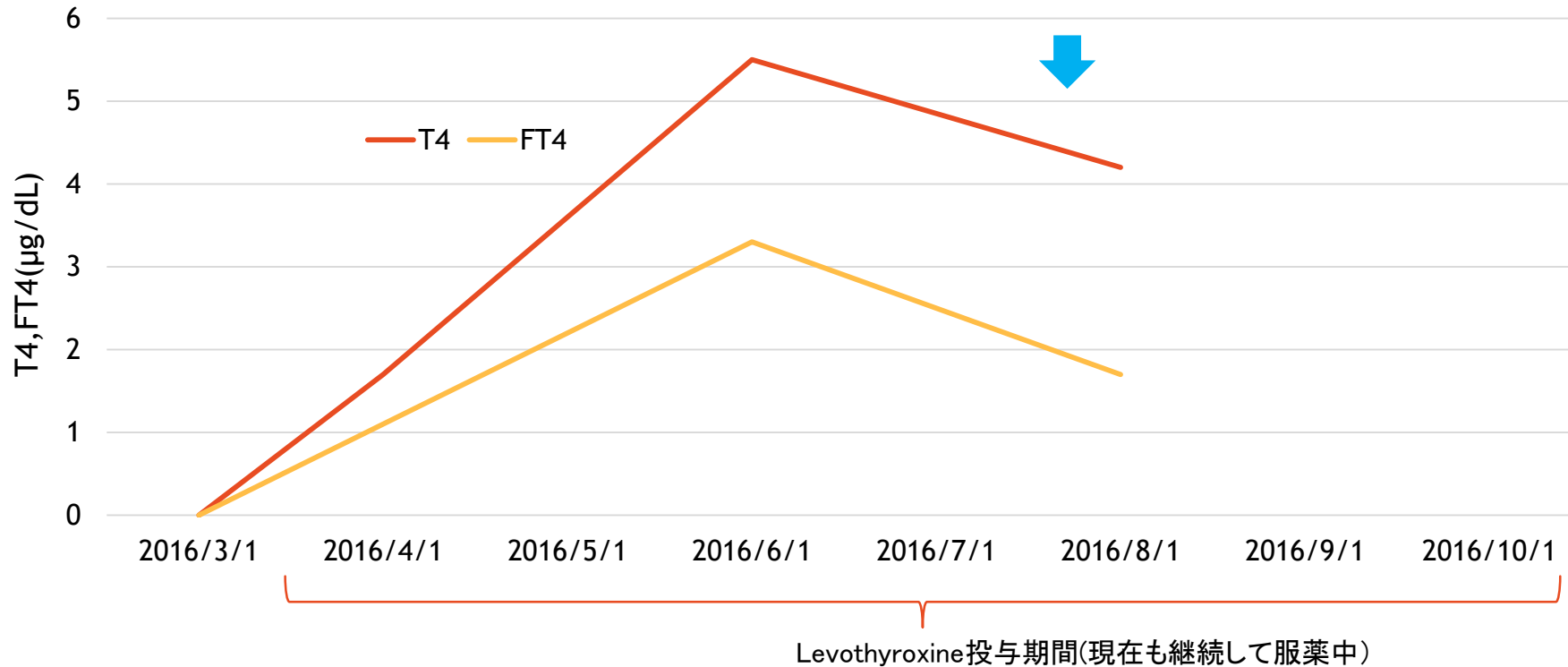
2016/2/18 肝酵素値異常

2016/3/17 T4:<0.1、FT4:<0.1 COR-pre:2.3 COR-post1:15.5 Thyro-tabs処方。(4/25よりソロキシシに処方変更。)

2016/7/8 ALT:230、AST:41、ALP:1174 ADSC培養開始。

②肝硬変・甲状腺機能低下症

自家ADSCを3回投与
7/22、8/1、8/15



T4およびFT4の濃度変化(2017年春頃検査予定)

	2016/3/17	2016/4/21	2016/6/6	2016/8/18
T4 (μg/dL)	<0.1	1.7	5.5	4.2
FT4 (μg/dL)	<0.1	1.1	3.3	1.7

②肝硬変・甲状腺機能低下症

自家ADSCを3回投与
7/22、8/1、8/15



	2015/3/6	2016/7/8	2016/8/18	2016/10/12
ALT (U/L)	159	230	236	236
AST (U/L)	30	41	46	46
ALP (IU/L)	1090	1174	1160	1031

獣医師コメント

- ・2016年健診時に肝酵素値異常、甲状腺ホルモンの低下が認められた。甲状腺ホルモン治療では治りきらなかった皮膚症状(四肢端の脱毛および痒み)の改善を期待しADSC療法を提案。
- ・ADSC療法の治療前後で肝酵素値の改善は認められなかった。
- ・甲状腺機能低下症に起因する皮膚症状の改善は認められなかった。
- ・自家ADSCの培養を行ったが、ほとんど増殖しなかった。
- ・今後は他家ADSCを視野に入れ、経過観察を行っていく予定である。